

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という基本方針に鑑み、これまでの理念の上に地域とのつながりを重視した理念を作った。	○	地域、利用者のニーズに応じて理念を新たにする。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年の事業計画書に理念を明記し、理念の振り返りと実践に努めている。また、職員採用時には理念に即した説明を行い、具体的な場面において理念が道しるべとなるようしている。	○	理念が形骸化しないよう、毎日の関わりの中で常に理念が活かされるように取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の訪問、また相談を受ける時には理念を根底に説明し、地域においては、なごやかよりあい事業や運営推進会議等で説明に努めている。	○	積極的に地域へ出向き、理念、役割を伝え、「安全・安心町づくり」に協力していきたい。地域向けの広報誌にも取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に立ち寄ってもらえるまでには至っていないが、旬の野菜を頂いたり、散歩では気軽に挨拶を交し合う関係にある。また、犬も一緒に散歩することで話が弾むこともある。	○	近所の方たちが気軽に訪問して下さるような雰囲気作り、話題づくりを推し進める。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、敬老会、運動会、遠足などの案内を受けており、地域で催される行事等には積極的に参加している。	○	今後も地域の清掃活動等、地域とのつながり、関係性を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の実態について詳しく把握していないのが現状である。実習生の受け入れ等は積極的に行っている。	○	運営推進会議において町内会長や民生委員の意見を参考に、地域の実情を踏まえて、事業所としての力を発揮できるよう取り組んで行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するにあたり、職員で検討会を行い、意義、目的を理解する。職員会議、ユニット会議等においてガイドブックを参考に現状のままでよいのか、改善すべき課題はないか検討している。	○	ガイドブックを参考にしながら、職員の着眼点を広くし、意識の向上を図りたい。・外部評価での指摘事項には全体で真摯に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	検討課題が出された場合、次回会議までに対応策と経過その結果を報告している。また、ケアプランの事例発表を行うなど認知症ケアの実際をわかりやすく報告し、指導や助言を請うている。	○	・より多くの家族に参加を呼びかけ、率直な意見を聞くことで質の向上を目指したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は運営推進会議メンバーの市職員との意見交換が主である。	○	市職員との関係作りを積極的に進めて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業の研修がある場合には参加している。家族には必要に応じてこういった制度があることをお知らせしているが、全体的な職員の理解度はまだ浅い。	○	必要な時に支援できるよう、研修には積極的に参加し、内部研修も定期的に行って行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待防止には努めているが、高齢者虐待防止法に基づいた教育の取り組み方は不十分である。	○	全職員が高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を提供し、気づかない虐待がないか勉強会を設ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書、重要事項説明書を中心に十分な説明を行い、家族、利用者からの質問には資料を明示し説明している。入居に際しては家族、利用者が充分納得できるまでの期間を用意している。解約にいたる場合は、法人施設との連携をはかり、不安がないようフォローしている。</p>	<p>○</p> <p>説明が一方的にならないように注意し、家族が知りたい情報は何か、言いにくかったり、質問しにくい雰囲気になっていないか、常に家族、利用者の立場にたって考えていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に一度利用者自治会を開催し、ホームでの生活全般について、幅広く意見を求めている。また、管理者は個別に居室を訪問し、苦情がないかそれとなく伺っている。苦情があればすぐに対応策を協議し、実行している。</p>	<p>○</p> <p>介護相談員の派遣を検討していく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、状況報告書(日常生活、行事での様子、受診状況、健康状態)並びに、金銭出納簿の写し、ユニットたよりを送付している。</p>	<p>○</p> <p>「このくらいは連絡しなくていいか」といった担当者の自己判断が起きないように指導するとともに、ご家族に対し相談、連絡、報告を欠かさないようにする。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問時、担当職員を中心に利用者の状況を報告しながら、家族の意見や苦情などないか聞くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族の苦情がないからといって、安心することなく、苦情や不満が素直に表せる関係づくりを構築していく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、ユニット会議、夜勤者会議等で意見や提案を聞く機会を設けている。また、会議で言いにくい場合には提案書により意見の表出を求めている。</p>	<p>○</p> <p>職員の持つ不安や不満、抑圧されている意見がないか、アンケート調査を行う。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況変化に伴う勤務調整は超過勤務や勤務交代によって補っている。</p>	<p>○</p> <p>職員数を確保し、利用者を中心とした職員配置を行う。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内部の移動及びユニット間での移動は極力抑えている。異動がある場合は、前もって利用者全員にお知らせしている。異動による利用者の不安は現在のところ認められない。</p>	<p>○</p> <p>職員交代の前後には引継ぎを充分に行い、利用者、家族に不安が起きないように充分に配慮する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は年度計画に基づき、職員の能力にあわせた事業所外研修に段階的に参加している。職員会議において研修報告をし、研修報告書は回覧及びいつでも閲覧できるようにしている。	○ 事業所内研修として、今年度はケアプランに基づく事例発表会を月に一度行っているが、年度ごとにテーマを決めて継続していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと職員交流や現場実習を行い、事業所の質の向上を図っている。	○ 今後も継続的に相互研修を深め、さらに他の事業所とも交流を深めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は月に一度管理者、主任との相談会を設けている。また、必要に応じて、全職員との話し合いの場を設けているが職員個々のストレスの把握にまでは至らない。	○ 日常的にストレスを緩和できるような人間関係の構築を行う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は資格取得のための応援、情報提供を行っている。又、職員個々の勤務状況を把握し、適切なアドバイスを行っている。	○ 職員が向上心を持って前向きな気持ちで働くことが出来る職場環境づくりを推し進める。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談で多くの情報を得るように努め、本人が何を必要としているか把握した上で、安心できるように努力している。	○ 十分に時間を取り、少しでもお互いを理解し合える関係作りをしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族のおかれている立場や現在困っている事、不安に感じていることなど、十分な傾聴に努めている。その上で、理解し納得していただけるよう説明している。	○ 家族の想いと本人の想いを整理した上で、次の段階に進めて行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が中心となり、本人、家族が望んでいる支援を見極め、必要に応じて他のサービス機関の紹介を行っている。	○	地域包括支援センターとの連携を蜜にする。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族、本人に見学していただき、地域の様子、事業所内の設備、雰囲気等十分に説明し体感してもらうようにしている。	○	お試し入所を積極的に勧める。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活全般にわたり、実際の関わりの中で共に行動し、過ごすようにしている。また、一人ひとりの不安や喜びに対し、共感し共鳴できる関係作りをするようにしている。	○	学習療法、バリデーション、PCC等積極的に取り入れて行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告書を家族に送付し日々の生活の様子を把握できるよう工夫している。訪問に際しては、できるだけ時間を設け家族の思いを受け止め、情報を共有できるようにしている。	○	家族の思いを受け止め、ケアプランの作成にも積極的に関わってもらえるようにする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	衣替えや盆の墓参り等をきっかけに家族へ外泊の相談を行い、より良い関係の継続に努めている。	○	疎遠気味の家族に対し、積極的な働きかけをしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に行き、墓参り等を行う。知人にの訪問に際してはゆっくり話が出来るよう配慮している。	○	ふるさとドライブ等、日課に取り入れ体体に染み込んでいる「手続き記憶」を引き出すような支援に取り組みたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶や食事の時間に職員も一緒に入り会話を持つようにしている。又、それぞれの役割を利用者同士協力し合えるように声かけし、お願いしている。	○	役割を持った活動場面を増やしお互いが自然に理解しあえる関係作りを進める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	身体状況に応じて病院へ入院された場合でも面会に行き、関係作りは継続してできている。	○	契約終了後、本人・家族に戸惑いや不安がある場合は、必要に応じてフォローしていく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話し合う場面を多くして、本人の希望や意向の把握に努めている。	○	暮らし方の希望、意向について更に把握していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に際しては出来る限り情報収集に努めている。入居後も都度家族、本人に直接伺い、ケアカンファレンス等で共通認識としている。これまでの生活リズムが極端に変わることのないよう、留意している。	○	不足する情報はプライバシーに配慮しながら、更に家族、知人等に少しずつ把握していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを観察すると共に、日常の何気ない会話や行動から心身状態等の把握に努めている。様々な事に誘い掛けを行い、できること、わかることを把握するようにしている。	○	いろいろなプログラムを提供しできそうなことからできることへ移行していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、ケアカンファレンス、モニタリング等全スタッフで意見交換し行っている。	○	本人、家族の意見を充分に取り入れたケアプランにして行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前に評価をおこなっている。変化が生じた場合は、直ちにケースカンファレンスを開き検討見直しを都度行っている。	○	検討見直しに際して、本人、家族の意見を取り入れる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、日々の生活の様子はケア記録に記入している。また、一人ひとりのその日の重要ポイントがすぐにわかるよう工夫している。	○	日々の記録が介護計画に結びつくようになっているか不十分、気づきや工夫を生き生きと具体的に記すようにしていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、通院受診の援助を行っている。	○	外泊の支援に取り組む。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には運営推進会議に参加して頂き助言を頂いているが、多様な地域資源との協働に関しては不十分。	○	警察、消防、公民館等地域資源との関係作りを進める。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外の生活支援のサービスに関して情報不足である。	○	市町村独自のサービスに関しての情報を集め、本人の意向があれば利用していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員も運営推進会議に加わり意見交換している。権利擁護や生活保護等に関し関係機関からの情報提供やご意見を頂いている。	○	地域包括支援センターとの関係を強化し、連携を図る。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も本人、家族が希望する主治医に受診の援助を行っている。家族が希望すれば通院援助を行っている。また、主治医で対応できない時は家族に相談し、他の医療機関に受診している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	夜間緊急時の対応、ターミナルケアに向けた対応をさらに強化していきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	あらゆる場合を想定した準備、検討を怠らないようにする。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	終末期ケアについての検討会を行う。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部に個人情報漏らすことのないよう漏洩防止に努めている。利用者の自尊心、プライバシーを損ねることのないよう最善の注意を払っている。	○ 職員の声かけ、言葉かけに不適切な面はないか、確認と改善を行っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	常に利用者のペースを尊重し、日常生活の中から利用者の気持ちを推し量り、利用者自身が自分で決めたり、納得して行動できるように努力している。	○ 本人が決める力を大切にして、意図的に引き出す取り組みを深めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を中心とした基本的な一日の流れはあるが、それにこだわることなく、本人の気持ちや気分、体調により、柔軟に対応している。	○ 本人が今日という一日をどのように過ごしたいか、要望を大切にして、その人らしい一日が送れるよう支援したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は本人の希望を取り入れ、希望する店で行っている。その人らしいおしゃれができるように、洋服の買い物に同行し支援している。	○ 外出時等に限らず、日常的に化粧、おしゃれの支援をして行く。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に法人内の給食を利用しているが、月に数度事業所内での調理を実施し、食事作りに関して、調理、盛り付け、配膳等それぞれができること、得意なことを役割を持っていただいている。事業所内の畑で野菜を作り、調理方法など相談して決めている。	○ 事業内での調理回数を増やし、食事を重要な活動にしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草、ライターは安全に管理している。好みのおやつ、飲み物など希望に添えるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の状態にあわせ排泄用具を選択し、トイレ誘導している。	○	出来る限りトイレで排尿便する支援を工夫していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日が決まっていると安心される方には曜日を決め、入浴を嫌う方には誘いかけを工夫している。入浴中は気兼ねなくゆったりと入れるようにしている。	○	夜間入浴の実施
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握して、1日の生活リズムを通じた安眠策を取っている。	○	なかなか眠りにつくことができない利用者に対する支援や配慮を工夫していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの好きなこと、得意なことを把握して、掃除、洗濯物の仕分け、草取り、犬の散歩等、その日の気分も考慮しながら支援している。	○	現状で満足せず、更に個々の楽しみや役割をもった活動ができないか関わりを深めていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理をしている人は少なく、事業所で管理しているが本人の希望があれば適宜使用できるようにしている。買い物ではご本人がレジで支払いするように進めている。	○	小遣いを持たせない家族に対して、小額でもお金を持つことによるメリットを理解してもらえよう働きかける。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとに外出を計画し、一人ひとりのその日の希望には出来る限り沿うようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日外出を中心に普段、出かけにくい場所には職員数を調整し、行っている。	○	利用者が事業所に遠慮することがないよう、一人ひとりの願いが叶えられるよう支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は子機を使い自室から使用できる。また携帯電話の使用も自由である。年賀状のお手伝い、日常の手紙の支援も行っている。	○	将来的にテレビ電話を取り入れて行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるようにしている。笑顔の対応に心がけ、どんなことでも職員に言ってもらえるような雰囲気作りを心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する行為について検討会を行った。安全面考慮が身体拘束に繋がっていないか点検するようにしている。	○	新人職員を中心に定期的に検討会を開く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全性重視の視点から設計施工の段階で、暗証番号による自動ドアの設置がなされた。運営者は今日の社会状況からみて、事業所が不審者の侵入防止策を講ずるのは当然の責務と考え、また、家族からも施錠してある方が安心との声もある。ガイドブックでの指針、着眼点の主旨はよく理解している。	○	利用者が玄関まで行かれたり、外に出たい要求がある時は散歩するなどして、極力、利用者に不安や閉塞感をもたらさないようにする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の状況、状態を常に把握できるようさり気なく様子を伺い、記録や作業中にも見守りやすい構造になっている。夜間も数時間おきに様子観察を行っている。	○	特に夜間は利用者の睡眠パターンを把握し行動予測をしながら見守りを行う。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間は台所とフロアの間仕切り戸をとりつけ、包丁はタオルでくるみ、高い場所にしまっている。石鹸の位置、鍵の取り付け、吸殻の後始末など注意をはらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練は毎月行っている。事故の大小を問わず、ヒヤッと感じたことがあれば事故報告書に記入し、全職員が周知すると共に対処策を協議し、家族にも報告している。	○	事故を未然に防ぐ為ヒヤリハットの報告事例を入念に検討する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変・事故に対応した応急手当マニュアルを用意し、全職員が応急手当の訓練を受けている。	○	繰り返しの訓練参加
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議において地域住民の協力、理解を求め、避難時は派手なシャツを着て避難させてはとの意見を頂く。防災・避難訓練は毎月行い、地震に対応した訓練も行っている。	○	消防署の教育訓練の実施
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常に家族との連携はできており、対応策も話し合えるようになっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は一人ひとりの体調変化に気を配り、つもとちがうなと感じたら、バイタルチェックを行うと共に、看護師、医師に相談し早期対応に心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人ファイルに添付し、服薬に際しては必ず確認するようにしている。ふらつき等がある場合は薬の副作用も考慮し、医師、看護師に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫や散歩等適度に体を動かすようにしている。	○	便秘傾向にある人の原因をさがし、栄養士、看護師と相談しながら継続的な対応策を考える。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、できない場合は職員が手伝っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により栄養バランスに基づいたカロリー計算を行い、摂取量、水分量ともに職員がチェックしており、必要に応じ記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は利用者、職員共におこなっている。各種対応マニュアルを作成し予防、対応策を講じられるようにしている。てすり、椅子、トイレ、洗面所等普段の消毒、殺菌を励行している。	○	早期発見、早期対応を心がけ、全職員が同一レベルの意識を持つよう、継続的な教育、啓蒙活動を行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士の指示により、台所、調理用具等の衛生管理を行い、冷蔵庫の食材は定期的に確認している。	○	決められたルールを全職員が徹底して守るよう指導する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前が駐車場の為、分かりづらい面があるが、机・椅子、松の盆栽、プランター、おいこ等を置き安心した雰囲気になるよう心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって居心地の良い空間づくりに配慮し、ソファ、衝立、小机等馴染める場所となるようにしている。飾りつけた物を外したり移動させてしまう利用者もおられるが、自然に元の場所に返すようにしている。	○	利用者が主体となって暮らしの場を整えていく支援を行う。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人及び2、3人で過ごせる空間として和室を用意してあるが、使用する人がいない。気軽に使用できるような雰囲気作りを行う。衝立、小机等を使い、利用者同士の人間関係には配慮している。	○	将来的に和室の改造を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒、鏡台、個人の想いがこめられた物等、自由に持ち込んでいただき、過ごしやすく安心して暮らせる居室になるように支援している。	○	さらに家族の協力を求め、馴染みの物を活かしてその人らしく過ごせる居室にする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、室温調整は職員がこまめに行っている。換気扇はエアコン使用時にも温度変化が起きないものを使用している。異臭が生じた場合はお香を焚くなど配慮している。	○	職員側の感覚で判断せず、利用者の状況に応じた細やかな配慮を怠らない。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、滑り止め等、一人ひとりの状態にあわせた配慮をしている。	○	利用者の自立と安全が両立するよう常に改善に取り組む。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの混乱を招くような原因を追求し、認識間違い、判断ミスを最小にするようにしている。	○	混乱の原因追及とそれにあわせた環境面での工夫を常に考える。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには松の盆栽を置き、周辺には花壇、畑を作り、収穫や草取りを楽しんでいる。ベンチを置き犬と戯れるようにしている。	○	ベランダから外に出られるように改造を検討する。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・職員はサービス内容や気持ちにマンネリ化が起きないように、毎月テーマ（主役は利用者等々）を決めてチームケアに取り組んでいる。 ・毎月ケアプランの事例発表会を